

授業評価アンケート 調査結果報告

昨秋に実施した第7回「授業改善のためのアンケート」調査結果の概要を、今月は後期完結科目について報告します。データ分析は、集計を行った（株）日経リサーチによるものです。

調査概要 (後期完結科目)

- 【調査実施時期】2002年11月6日～20日
- 【調査対象】獨協大学の全学生
- 【調査方法】授業出席者に対して配布、授業時に回収
- 【調査内容】教員評価、授業満足度、講義・演習・外国語・体育実技等の評価

【調査回収サンプル数】 合計 7655サンプル*

学部別	合計	学年別	合計
外国語学部	5392	1年	2593
ドイツ語学科	426	2年	2313
英語学科	2457	3年	1992
フランス語学科	345	4年	492
言語文化学科	2164		
経済学部	1388		
経済学科	560		
経営学科	828		
法学部	609		
法律学科	451		
国際関係法学科	158		

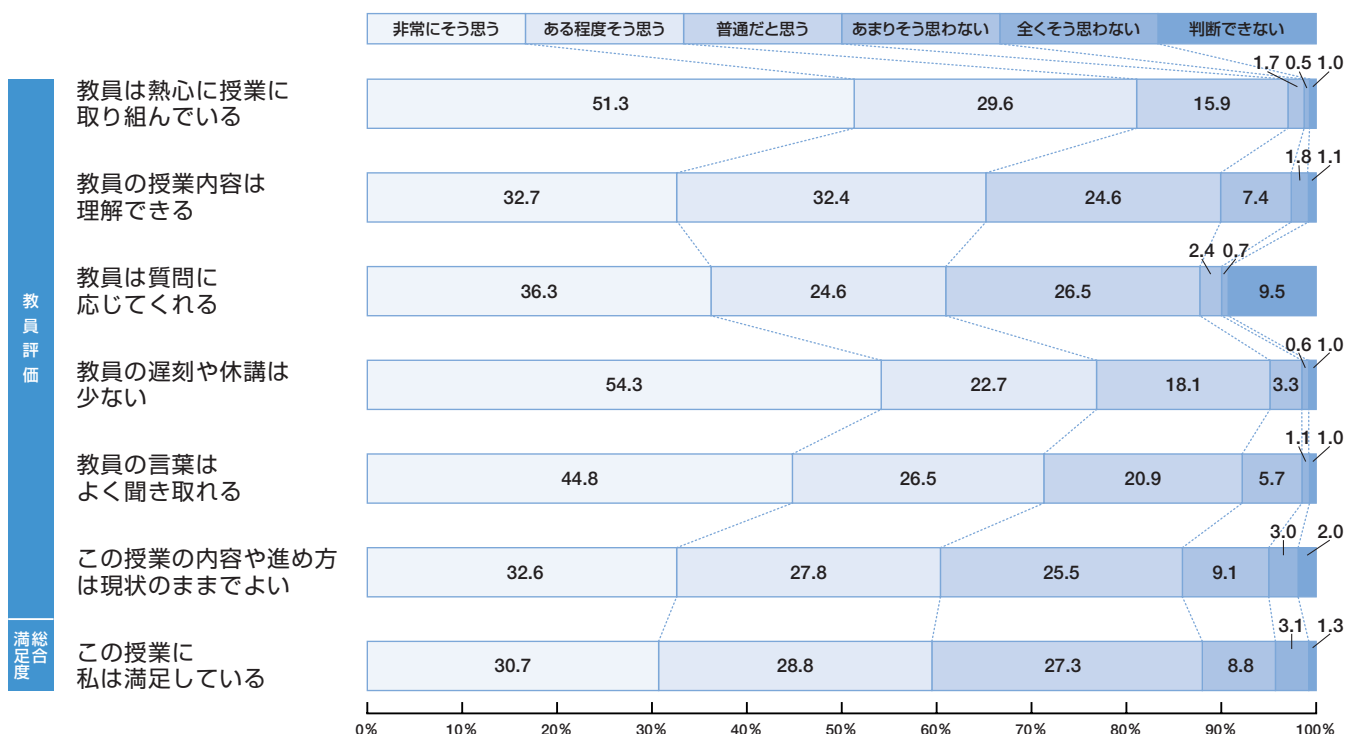
*学科、学年が未記入のものを含む。

【教員所属学科別回収率】

	受講者数	回答者数	回答率
外国語学部 合計	8806	5923	67.3%
ドイツ語学科	329	155	47.1%
英語学科	3680	2565	69.7%
フランス語学科	101	84	83.2%
言語文化学科	2714	1711	63.0%
共通科目	1771	1279	72.2%
外国語学部客員教員	211	129	61.1%
経済学部 合計	2852	1488	52.2%
経済学科	438	195	44.5%
経営学科	2414	1293	53.6%
法学部 合計	597	244	40.9%
法律学科	112	24	21.4%
国際関係法学科	485	220	45.4%

共通項目全体について

- 教員評価の項目を「非常にそう思う」の割合で見ると、最も評価が高いものは「教員の遅刻や休講は少ない」で54.3%となっている。
- 「そう思う」（「非常にそう思う」と「ある程度そう思う」）の合計では、「教員は熱心に授業に取り組んでいる」が80.9%と8割以上の評価を得ている。次いで「教員の遅刻や休講は少ない」（77%）、「教員の言葉はよく聞き取れる」（71.3%）となっている。
- 全般に評価は高めであるが、「そう思わない」（「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」）の合計では「この授業の内容や進め方は現状のままでよい」が1割を超えている（12.1%）。
- 総合満足度では「そう思う」の合計が59.5%と、6割近くが授業に満足している。



個別の授業科目について

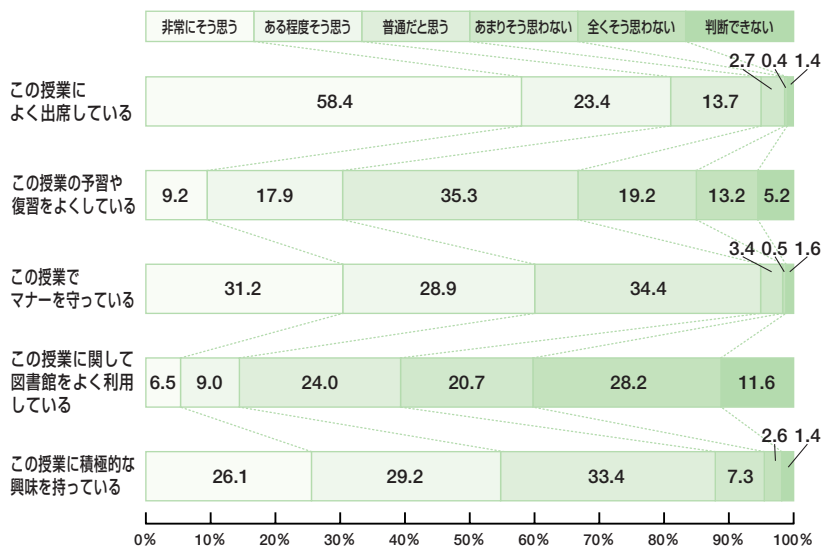
- 演習科目については評価が高い傾向にあり、特に「討議や発表が積極的に取り入れられている」の評価が最も高く、「そう思う」（「非常にそう思う」と「ある程度そう思う」）の合計が69.5%と7割近くが満足している。
- 外国語科目では「使用教材」「能力の会得」「授業進度」という3つの視点いずれも5割前後の評価となっている。一方、「授業の進度は適切か」について、「そう思わない」（「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」）回答者に対し、「授業の進度をどう思うか」と尋ねたところ、42.2%が「遅すぎる」としており、「早すぎる」をやや上回っている。
- 講義科目では「そう思う」の合計が5割を超えるものがなく、やや低い評価となっている。

※サンプル数…講義科目5573、演習科目206、外国語科目1876



自己評価項目について

- 「この授業によく出席している」については「非常にそう思う」が58.4%と5割を超えている。「そう思う」(「非常にそう思う」と「ある程度そう思う」)の合計では81.8%となっており、アンケート回答者の授業の出席率の高さがうかがえる。
- 次に評価が高いのは「この授業でマナーを守っている」で、「そう思う」の合計が60.1%と授業態度の評価も高い。
- 一方、「この授業の予習や復習をよくしている」「この授業に関して図書館をよく利用している」についての評価は低く、「そう思う」の合計が「予習や復習」では27.1%、「図書館の利用」が15.5%となっており、授業時間以外の勉強に臨む姿勢には弱さが見られる。
- 「この授業に積極的な興味を持っている」について「そう思う」の合計が55.3%と過半数を超えているが、「普通だと思う」のスコアも3割を超えており、授業に対する関心は必ずしも強いとはいえず、勉強態度の弱さにつながっていることがうかがえる。



データ分析

全体データ

- 共通項目全体について
 - 通年科目同様、教員の授業に対する熱心な取り組み、遅刻・休講の少なさに対して高い評価となっている。授業の理解、授業の内容・進め方の現状に対しては評価が低い。満足度向上のためにもこの点の改善が望まれる。
- 個別の授業科目について
 - 講義科目はいずれの項目でも「ふつうだと思う」の回答が多く、全体的に評価が低くなっている。教科書および参考書の役立ち度や、シラバスに即しているかどうかへの評価は約2割が「判断できない」としており、授業目的が明確に伝達されていない可能性がある。
 - 演習科目は授業時の討議・発表の取り入れや、専門分野の知識習得に対して評価が高くなっている。一方で、個々の学生に応じた指導については評価が低くなっている。
 - 外国語科目は、肯定的評価はいずれの項目も5割前後にとどまっており、全体的に低い評価となっている。授業進度については1割弱が否定的評価をしており、このうち4割が「遅すぎる」と評価している。

自己評価項目について

授業の出席や授業態度については高い評価をしているものの、図書館の利用、授業の予習復習の評価は低く、自己学習に対しては消極的な態度がうかがえる。

属性別データ

- 学年別
 - 通年科目同様、学年が上がるにつれ評価が高い傾向にある。在籍年数が長くなることで大学の授業に慣れ、評価基準が若干甘くなっているとも考えられる。
- 学部別
 - 全体を通じて外国語学部の評価が高い(経済学部、法学部は科目によって回答者数が少ない場合があるので、その場合は参考値とされたい)。教員評価では授業への熱意が各学部で高く評価されている。

授業満足度の時系列比較

右の表は、通年科目、後期完結科目の授業満足度(7ページ最後の質問における「非常にそう思う」と「ある程度そう思う」の合計)を合算し、過去のスコアと時系列比較したものである。

全体の授業満足度は、2001年との比較では1.7ポイントのダウンとほぼ横ばい。各学部でみると2001年からやや低下のスコアとなっている。学年別では1年生の伸びが最も高いが、4年生では最も低下した。しかし、4年生では6割を超す満足度となっている。

昨年の1年生、つまり今年の2年生の授業評価は、昨年48.9%から54.9%と、6ポイント上昇し、大幅にスコアを伸ばしている。同じく2年(56.5%)→3年(59.1%)が2.6ポイント増、さらに3年(63.6%)→4年(64.2%)は0.6ポイント増であった。

授業満足度の推移 (単位: %)

	99年	00年	01年	02年	02-01
全体	53.7	56.0	56.7	55.0	-1.7
外国語学部	54.7	59.6	59.9	57.5	-2.4
ドイツ語学科	51.3	58.9	59.7	55.5	-4.2
英語学科	56.7	58.8	60.8	57.5	-3.3
フランス語学科	55.5	63.1	60.3	58.2	-2.1
言語文化学科	49.9	60.5	56.4	59.4	3.0
経済学部	53.6	53.7	55.0	54.0	-1.0
経済学科	55.0	52.2	53.4	52.0	-1.4
経営学科	52.5	55.2	56.5	56.0	-0.5
法学部	51.8	53.6	53.4	52.6	-0.8
法律学科	52.4	54.0	54.0	52.4	-1.6
国際関係法学科	45.2	51.5	51.4	53.4	2.0
1年	46.7	51.3	48.9	50.5	1.6
2年	51.9	55.6	56.5	54.9	-1.6
3年	57.6	60.2	63.6	59.1	-4.5
4年	70.6	67.5	69.4	64.2	-5.2